

第8回門真市魅力ある教育づくり審議会

(第6回つながりのある教育の創造部会) 議事録

開催日時 平成30年5月24日(木) 午後3時20分～午後4時40分

開催場所 門真市役所本館2階大会議室

出席者 佐久間敦史、小林美鈴、横貫照国、国吉孝、齋藤耕司

事務局 水野教育部次長、中野教育総務課長、高山学校教育課参事、黒木教育総務課長補佐、宮崎教育総務課長補佐、松岡教育総務課副参事

傍聴者 0名

議 事

佐久間部会長

「つながりのある教育の創造部会」を開催させていただきます。それでは、まず事務局から今回の部会での議題について説明をお願いします。

事務局(中野教育総務課長)

今回のつながりのある教育の創造部会におきましては、先程、説明をさせていただきましたとおり、「学校施設の改善」について、ご討議をよろしくをお願いします。

討議時間は約1時間20分を目安とさせていただきます。4時40分頃まで討議いただき、その後、10分の休憩時間を挟みまして、4時50分には全体会にてまとめの報告をお願いしたいと考えております。

なお、討議の柱といたしましては、部会の次第にもございますとおり、「①子どもにとって、より良い学校施設(『教室で教える学校』から、『学ぶ環境としての学校』)のあり方について」、「②地域とのつながりを大切にした学校施設(『地域の風が、いきかう学校』)のあり方について」の2点で進めていただきますようお願い申し上げます。

佐久間部会長

ありがとうございます。それでは、議題が2つですので、大体4時ぐらいまでと4時ぐらいまでと30分、40分程度で進めたいと思います。

まず1点目といたしまして、「子どもにとって、より良い学校施設(『教室で教える学校』から、『学ぶ環境としての学校』)のあり方について」というのが討議の柱の1つ目になります。2つ目の討議の柱が「地域とのつながり」ということなので後半よろしく

お願いします。

では時間も押していますので、施設面が中心の課題になっていますので、特に先ほど非常にきれいな映像を見させてもらいましたので、皆様から映像の資料を含めてより良い学校施設ということの在り方とか、先ほど築 50 年というのがありました、こんな学校が良いとかあんな学校が良いとかいうことをお話しただければと思います。我々が通っていたころの学校のイメージとは随分と違う映像だとは思いますが、その辺りを市民の方と学校関係者で、今の学校のイメージにとらわれず、先ほどの映像などを参考にしながらざっくばらんな意見を頂ければと思います。

どなたからでもいいのですが、市民委員からお尋ねして学校に答えてもらうようにしましょうか。では、資料で分からないことも含めて、より良い学校施設についてということでどんな角度からでも結構ですので、ご意見を頂けないでしょうか。小林委員いかがですか。

小林委員

学校施設ですよ。保護者として一番求めるここだけというのはトイレです。

子どもが学校のトイレが汚くて怖いので、朝学校に行って帰ってくるまでトイレを我慢しています。

なんで学校でトイレをしないのって聞くと汚いから嫌とか、2階が怖いから嫌と言って我慢して帰ってきます。だからトイレは綺麗であってほしいと思います。

佐久間部会長

はい、もっと言って頂いていいですよ。

小林委員

トイレを我慢すると勉強に集中できないみたいで、給食も気になって水分を取らなかったりとか、あんまり食べなかったりとかしているみたいで、やっぱり集中力は欠けますね。砂子小学校はトイレが綺麗になったので、そこからトイレを我慢しなくなりました。トイレが綺麗になって行くようになって、給食も残さなくなっ、集中力も出てきたかなと感じました。

佐久間部会長

おっしゃることは非常に重要なことなんです、少しイメージが分からないのは汚い学校にトイレだけ綺麗というのは何か違うかなと思いますが。

小林委員

でもやはりトイレが一番きれいというのは大きく変わってくると思います。

佐久間部会長

ありがとうございます。それでは、一番はトイレで、2番、3番は後でお伺いしますので、少し考えておいてくださいね。

では横貫委員お願いいたします。

横貫委員

施設ですので、新しくするって考えた時に、全部新しくするのは面白くないので、リノベーションっていうのが一つの手かなと思います。廃校になっている学校から机を持ってきて、その机は親が勉強をしていた机だということとか、アンティーク調の黒板をわざと入れたりするのも一つだと思います。

あと私は中央小学校に通っていましたが、下足室が教室の前であって、でも今、門真みらい小学校に行ったら違うじゃないですか。

国吉副部長

集中下足室ですね。

横貫委員

下にありますね。あれはなぜ違うんですか。なぜこの2つのシステムがあるんですか。

国吉副部長

それは多分ですね、教室まで土足で上がると靴の裏が泥で汚れている場合に、その泥が上まで上がって掃除が大変になります。集中下足になると一階になりますので、一階で履き替えるとその部分だけで、上は綺麗な状態で掃除にもあまり影響を与えないということだと思います。

佐久間部長

それは何か集中下足室は嫌だとかありますか。

横貫委員

そういうことではないんですが、なぜなのかなと。同じ時代でも違うところがあるのかなとそれが疑問に思っただけです。テレビでも見たことがあるんですが、壁のないクラス、教室。あれも面白いと思いますが、授業をする方はどうなのかなと思います。これもテレビで見たことがあるんですが、中学校の中にお年寄りの施設を入れてしまうと幼稚園、保育園を入れてしまうというのがありますけど、教師をしている人に聞くと大変ということも聞きますし、どうなのでしょう。

あと校庭芝生というのがありますが、いるのかなと思います。

また先ほど英語の話もあったので、もし英語と絡めて学校を良くしようということであれば、席をアメリカ人みたいに椅子と机を一緒になったやつにすれば、片付きやすそうですね。コンパクトになるようなものにしたら、全部教科書を持って帰らないといけなくて、荷物が増えるだけだと思いますが、あれが英語を学ぶのであれば英語の環境に浸るという意味では面白いかなと思います。

佐久間部長

おっしゃっていただいていることはアンティーク調以外、どこかにあることですね。アンティーク調も木造校舎作ってというのがありますよね。新しく立てる校舎をわざと木造にして、温もりのある校舎で子どもを育てようというようなことですね。

どんどん行きましょう。今日は言いたい放題ですので、思いつかなければ先ほどのこれがいいとか。

リノベーションのあたりはもう少しイメージを聞きたいなと思いますが、今日の議題はどちらかというところと完全に新築という感じですが、親が使っていた机というのは面白いなと思いますが、どんなイメージですか。

横貫委員

物を大事にするっていうことですね。物を大事にするということがアンティークに繋がっているようなところと、何代か前の先輩たちが使っていたものっていうことが何か刻まれているとそれはいいことじゃないかなと思います。

体育館をいじっても面白いと思いますね。どこの体育館も同じ形をしていますよね。ドーム型にしてしまうとか。あってもいいんじゃないかなと思います。

トイレは私も小学校の時、すごく嫌でした。職員トイレに行っていました。

佐久間部会長

最近ウォシュレット付のトイレも入っているところがありますね。門真市はどうですか。新しい学校はウォシュレット付ですか。

国吉副部会長

子ども用のは付いておりません。教員用には付いております。私がいた時に付けました。男性職員用1か所。女性職員用1か所の2か所です。

佐久間部会長

自動で水が流れる自動水洗になっているのはそれぐらいなんですか。

国吉副部会長

自動で流れます。ウェットではなくてドライ方式です。

佐久間部会長

ドライ方式って何ですか。

国吉副部会長

掃除をする時、どちらかというところと充分絞った雑巾で拭く感じですよ。トイレ掃除というところと昔は水をザーッと流してというのがありましたが、そういう形ではありません。

佐久間部会長

トイレは方針があるんですか。

事務局（中野教育総務課長）

整備方針は今の所ありませんが、全国的に洋式化の問題があって、学校のトイレに洋式のトイレが少ないということで国全体の全国平均でも5割を切っている状況ですので、それを各団体がそれぞれ引き上げていこうという方針で進めています。

本市も国の平均の5割を切っている状態ですが、洋式化をまずは進めていこうということで、小学校1校でトイレ改修の設計が予算化されていますので、来年度に改修工事を行います。そういう改修の時に併せて洋式化もして行きたいと思います。

佐久間部会長

そういう時はトイレだけ綺麗にするんですか。

事務局（中野教育総務課長）

残念ながら予算の兼ね合いがありますので、結局トイレだけの改修になっています。

佐久間部会長

古い校舎にトイレだけ突然綺麗になるというイメージですか。惜しい感じがしますね。

齋藤委員

今の話に関わって、本校は先程の話で一番古い学校ということですが、トイレは綺麗です。

佐久間部会長

トイレだけ。

齋藤委員

はい、トイレは平成13年に全面改修をして、綺麗なので、低学年の子ども達もトイレを怖がるといったことはないです。トイレは綺麗になってそれはありがたいなと思います。

国吉副部会長

でもドライ方式ではありません。旧来の方式です。

佐久間部会長

トイレですが、幼稚園、保育所のトイレは本当にかわいらしく、安心というかハリウッドドアになっていて、上から覗けますし、保育所の方はカーテンですし、もちろん水洗ですし、小学校にいったら急にトイレに行きたくなくなるというのは分かるなと思っていたんですが、新しくなっているトイレも1年生の6歳から12歳まで同じトイレを使っているというイメージなんです。

国吉副部長

低学年用の小さいトイレも入れていたような気がします。

齋藤委員

階が下の方は低学年なので、少し小さいトイレが設置されています。

佐久間部長

それは意識してそうになっているんですかね。

事務局（宮崎教育総務課長補佐）

当時改修工事に関わらせていただいていたんですが、学校の先生と協議しながら、進めさせていただきました。低学年が使いやすいようにであったり、車椅子が利用できるように協議しながら設計を行いました。

佐久間部長

ありがとうございます。

横貫さんの意見と質問を学校側にとということなんですが、オープンスクールとか芝生化とかもう一つテーブル付の椅子とかそういうのとかが出来ないんですかということなんですが、どう思われますか。

国吉副部長

私の学校には芝生は入っております。当時、他の学校にいる時は芝生を入れることは私自身は反対でした。なぜかということ入れた後のところの管理が大変だと。水をやらずにほったらかしにしたら枯れてしまうということで、ところが本校は職員が全く関わらずに地域の人が芝生実行委員会という組織を作られて、そこが全部しています。水は自動化されていますので、時刻がきたら散水します。肥料撒きも地域の方が、今週土曜日には芝刈りがされます。伸ばしっぱなしにすると次に刈った時に伸びなくなると。成長点の所でカットしたら、次又伸びてくるという詳しいことも教えていただきました。それで芝生なんですが、子ども達がそこで寝転んだりして、非常に安全性があるというか、通常のグラウンドであればそれはできませんし、グラウンドの真ん中は芝生ではありませんが、周りは芝生にしていますので、特に鉄棒があるところなどは端にありますので、そこも芝生なんです。それで色々なことを鉄棒でしますよね。通常グラウンドであれば落ちて怖いんですが、子ども達が落ちてても下が芝生なので、安全性に富んでいていいなということがあります。

佐久間部長

遊具や鉄棒の下が芝生ですか。

国吉副部長

そうなんです。

佐久間部会長

ヨーロッパなんかはウッドチップが全部敷いていますね。日本だけは固いんですよ。後はオープンスクールについてですが、門真市にはないですよ。

国吉副部会長

オープンスクールについてはわかりませんが、四中は3教室ぐらい抜いた向こう側が図書室なんです。初めて聞いたときはすごいことをするなと思いましたが、四中は会議等では使いますが、果たしてオープンにしたからそれがいいのかというと、それも一長一短だと思いました。ある程度パーテーションで仕切って、そこで子ども達の学習の空間を作るっていいと思います。そのパーテーションが自由にできるような子ども達を使い勝手が良いようなものであればOKかなと思います。

齋藤委員

壁がないというイメージですか。

佐久間部会長

そうです。イメージで言うと教室のドアが開いているというような、教室ごとの仕切りはありますけれども、ドアの壁がないような。

齋藤委員

空間の広がりがあるの、伸び伸びとした印象もありますし、よく隣の声が気になるということも聞くんですが、そんなことはないのかなと、先ほど出ましたが学習の形態が多様に使えるというメリットが大きいかなと思います。

佐久間部会長

割とあるのが、間仕切りだけがあって、1組、2組があって、でると割と広いスペースがあってというところが多いです。そのスペースは作業をしたりとか話し合いをしたりとか学年で話をしたりとか使いやすくなっているという、このさっきの写真もそんなイメージですが、そういうのはどうですか。

小林委員どうですか。どんなことで使えそうですか。

小林委員

縛られるというイメージから開放感が持てるんじゃないかなと思いますので、それはすごく良いなと思います。

佐久間部会長

経験的には、締め切って何をしているか分からないとか突然怒鳴り声が聞こえてくるとかというのが割と無くなります。

それを作ると少し籠る小さい空間を別に作っておかないと子どもは今度落ち着かな

くなってしまうので。押し入れみたいな感じの。

小林委員

それは良いかもしれませんね。

佐久間部会長

海外では2段ベッドみたいな感じで上に小さい部屋を作ったりとかしていますね。色々工夫をして解放感というのがキーワードかもしれませんね。

先ほどのテーブル付椅子の話がありましたよね。それはどうですか。いわゆる机と椅セットではなくて、パッと円になってとかいうイメージですよ。

横貫委員

片側から席に入るようなイメージですね。姿勢には良いのか分かりませんが。

佐久間部会長

そういうことから言うと、きちっと姿勢を正してというのとは違う感じですね。どう思いますか。

齋藤委員

面白いとは思いますが。ただ椅子と机が離れていることによって例えば椅子だけ前に持ってきて、机を後ろにやってというように場面によっていろんな形をつくるためには離れている方が使いやすいかなという気はします。

国吉副部会長

僕は高校の時、確か机と椅子がセットになったものを使っていた気がしますが、そういうイメージではないですか。

事務局（黒木教育総務課長補佐）

学校によっては音楽室で使っているようなものですね。

佐久間部会長

それとは違いますね。横から机が出てくるものです。小さめの肘掛のようなものがでてくるものです。

使いやすいですよ。円になって話し合うとか。場合によったら25人の円になって話し合うとか。机ごと4人で班にするのとかとまた違う感じがして、色々な使い方ができそうですね。

全部それにするのも大変な気がしますが、そういう教室があっても良いと思いますか。全部そうしたいですか。

横貫委員

英語の授業だけそうしたいですね。

佐久間部会長

英語の授業だけですか。そうですね。コミュニケーションですからね。

少しこだわりますが、せつかく事務局が提案してくれたので、先ほどのこれは何か、学校は知っていますよね。どうですか。取り入れたいようなものはありますか。あるいは質問とか疑問とか。まずは4枚ぐらいめくってもらって多目的スペースと書かれた、これは横貫委員が言われたオープンスクールみたいな感じですか。CL というのはクラスルームですよ。

事務局（宮崎教育総務課長補佐）

そうです。CLはクラスルームです。

佐久間部会長

そうですね。オープンスクールですよ。1クラスずつがあって前にオープンスペースがあるイメージですよ。

オープンスクールは作りましょうか。作ることにします。

次は、「廊下に面したデン」、これは先ほどの押し入れみたいな子どもが安心してここにスッと入るところです。

国吉副部会長

画一化された教室だけではなくて、色々と形が変わった大きさが変わったパーティションが入ったものの方が子ども達にはいいかもしれませんね。ここはこういうふうな変わった教室なんだという。僕らの時代は音楽の教室が階段教室なだけで、中学校に入った時に感動しましたから。

佐久間部会長

どうでしたか、小林委員。目に留まる写真とか。

小林委員

多目的スペースがあったほうがいいと思います。結構広めにとられているので、色々なことができるんじゃないかなと思います。できれば図書室がこんな感じだったらすごく良いと思います。パソコン使ったりとか、寝そべって読んでみたりとか。色々な方が来られて話したりとか、例えば地域の方とかボランティアの方だったりとかが自由には入れたら面白くて、色々な意味で勉強になるかなと思います。

そういった多目的スペースがあったらいいかなと思います。

佐久間部会長

現実的にはそういうところは門真市にはないんですか。四中の話は近いんですか。

国吉副部長

少し違いますかね。

齋藤委員

前任校の門真みらい小学校の図書室は結構大胆に改修されていました。今おっしゃられたように、寝転んで本を読むスペースがあったり、椅子に座ってきちんと読めるスペースがあったり、勾玉の形をしたテーブルがあっっているんな形に組み合わせたりすることもできますし、結構広い空間をとっていただいているので、レイアウトもすごく工夫されています。子どもたちの読書の習慣付けとか興味づけができる色々な仕掛けが施されている図書館だなと思います。そのおかげで、たくさん子どもたちも休み時間には図書室に足を運んでいました。

佐久間部長

それは司書の方がいて整備されたりしているんですか。

齋藤委員

司書の方もおられたんですけども、その前に市教委のほうに入っていたら、大規模に改修していただいたと思います。本も結構一新され子どもが興味を持つような本を配置していただいたと思います。

佐久間部長

併せて小林委員がおっしゃったような地域の方が入ったり、ボランティアの方が入ったり、読み聞かせ教室があったり、パソコンを置いてあって、総合的に使ってとかいう感じではないんですか。

齋藤委員

その部屋はどの学校もそうかもしれませんけれども、サスタタであったり、水曜日のまなび舎の部屋にも使っていました。また、PTAの方に読み聞かせをしていただいたりもしていました。夏休みも図書室開放を5日間ぐらい実施していて、子どもたちは本読みに来たり宿題をやったりといったことにも使っていました。

佐久間部長

良さそうですね。じゃあ、それは採用ですね。どうですか。他には。

国吉副部長

先ほど、体育館をドーム型にという話もありましたね。

佐久間部長

そうですね、体育館をドーム型も聞かないといけませんね。

横貫委員

言ってみただけなんですけれど。

もう一つあって畑作ってみたいんですよ。学校の中に畑。よくありますけれども。

佐久間部会長

もう少しどんなイメージですか。小さいのもあるじゃないですか。

横貫委員

本格的なものです。米も作ってみたいです。給食で出してみたいです。

そこまで一回やってみたら、物を残さないようになるんじゃないかなと思います。食育を絡めてもいいかなと思います。

佐久間部会長

オランダの学校はそんな感じですね。難民の子どもが通っている学校なんですが、公営住宅のような建物に囲まれた真ん中のスペースに畑とか、自然の丸太が転がってるとか。もう色々なことができるようになっていて、地域のそういう環境の専門家が入っていてとても面白い総合学習をしているところがイメージが一致しました。いいと思います。どうですか。でっかい畑は。畑ではなくてもいいと思いますが、自然を。

国吉副部会長

それはいいですね。自然を作ると今盛んに言われている状態ですが、あるエリアを虫なり小さい動物が環境循環できるようなものを作ってみたらどうかなと思います。

水辺であったり、畑であったり、森であったりというようなものを作ってみませんか、かなり今言われているところなんです。

佐久間部会長

門真の学校に来たらそういう環境があるというのは素敵な教育環境ですよ。

それぐらいにしておきましょうか。あと、出ていた重要なお意見の中で、学校の中で高齢者施設とか保育所とか幼稚園を入れるとかいう話はこれも重要なかなと思うので、それはこの後の議論でもやっていける話かなと思いますが、地域のつながりを大切にした施設というところは、そこを中心にいこうかなと思います。

もう一つこちらの部会で話をしておくことでいうと、先ほどの人数が極端に少ない学校をどうするかというのは、ここで決める話ではないのかなと思いますけれども、学校側から聞いた方がいいのか、市民委員から聞いた方がいいのか、砂子小学校とか北巢本小学校とかは1年生19人、23人とか、早く潰して新しくした方がいいと思うんですが、もっと大きい所とくっつけるとかそこらへんはどう思われますか。

小林委員

それは自然だと思います。少なくなってきたのに、学校だけが大きいままで残っているというのは、無駄というかもったいないと思います。でももし予算が可能でいくつかの学校を一緒にして新しく学校を作り直すことが可能であれば、その方が良いかな

と思います。ただそうなった時に、今言われたみたいに多目的スペースが最初から作れるじゃないですか。トイレも最初から綺麗になるじゃないですか。色々なかたちで色々な取組はできると思いますので、そっちの方がいいかなとは思いますが。

ただ学校はそういうふうに変わっていくんだと思うんですが、地域とか色々な団体の絡みが問題になってくるんじゃないかなと思った時に、どこまで進められるかなという思いがありますので、疑問というか心配はありますね。

佐久間部会長

少し分かりにくかったんですが、何を心配されていますか。

小林委員

学校が新しくなるじゃないですか。やっぱりそこに地域の協力であったりとか、保護者の協力であったりとかが必要ですよ。そうなった時に対応できるような学校が作ってもらえるのかなと思うんですけども、地域の方が入れるのかとかその辺ですね。

佐久間部会長

それは次の議論の部分かな。もちろん重要なことで同時の議論になると思います。

横貫委員いかがですか。1年生19人みたいな小さな学校をどうするかというのは、一言でいいので。

横貫委員

砂子小学校は、合併して砂子になりましたよね。もう合併に合併を重ねていってますよね。みらい小みたいな感じですよ。

国吉副部会長

門真みらい小みたいな感じですよ。水島と南が一緒になりました。

横貫委員

遠くなるんじゃないですか。

国吉副部会長

距離的には広がるので、遠くなりますね。

体力がある子どもが出来るということですよ。

佐久間部会長

地図で言うとどこですか。

事務局（黒木教育総務課長補佐）

千石東町の所です。

佐久間部会長

すいません。仮の話になりますが、この千石東町にある砂子小学校は小規模校になりますが、どことどの学校を引っ付ければそこその規模の新設校になるというのは、仮の話でイメージしやすく教えてもらっていいですか。

事務局（黒木教育総務課長補佐）

今、砂子小学校を例に挙げているんですが、砂子小学校から今一番近い小学校は脇田小学校になります。それで脇田小学校の真横に道挟んですぐに第四中学校があります。

佐久間部会長

その隣が。

事務局（黒木教育総務課長補佐）

その隣は地図上ではかなり近くなっていますが、大分空いて東小学校があります。

佐久間部会長

岸和田ってかいてあるところは何がありますか。

事務局（黒木教育総務課長補佐）

四宮小学校です。一番右にあるのが第五中学校です。

佐久間部会長

単純に隣同士をくっ付けばいいという話ではないかもしれませんが、だいたいイメージはこの辺になるんですか。

事務局（黒木教育総務課長補佐）

そうですね、統合を検討ということになると校区は隣同士が前提にはなっていくのかなと思います。

佐久間部会長

そうすれば、例えば仮にですが、砂子と東小学校がくっついてというイメージですか。

事務局（黒木教育総務課長補佐）

えー、隣ということになると砂子小と脇田小になります。

佐久間部会長

そうすると600人ぐらいの結構大きな学校になりますね。

事務局（黒木教育総務課長補佐）

脇田小学校はそこそ中規模な学校ですので。

佐久間部会長

そういう意味で言うと四中の辺りになるんですね。

事務局（黒木教育総務課長補佐）

四中が道路挟んで隣になりますので。

佐久間部会長

ここに集まってくるわけですね。幼稚園を一緒に作ろう、老人ホームを作ろうという話になるんですね。いいかもしれませんね。ここらへんに門真団地があるんですか？

国吉副部会長

門真団地の校区は砂子小が校区になります。

佐久間部会長

なるほど、良いかもしれませんね。

時間はあまりありませんが、その辺の話を事務局から次回の議論にもつなげる話かもしれませんので、教えてもらうことがあれば、適正化するような委員会の話があればお願いします。

事務局（中野教育総務課長）

学校の再編統合ってということについて、門真市でこれまでどのような取組をしてきたかというところを申しますと、平成12年に学校の適正配置の審議会の答申が第1次答申というのが出ております。

2年後の平成14年に2次の答申というかたちで適正配置の答申がなされて、直近一番新しいのが平成20年に3次の答申というのが出されております。

この3つの答申によりまして、これまであった5つの小学校が2つの小学校に再編統合され、2つの中学校が1つの中学校に再編統合されたものであります。

ただこの答申内容がすべて実現したかと言いますと実現しておらず、第二中学校区内の大和田小学校と上野口小学校の再編については継続案件と今現在なっております。

この場でのいろいろな説明にもありますように、今後子どもたちにとってよりよい教育環境を実現していくために再検討も含めた適正配置というのは子どもの減少動向も見きわめながら、審議会等の開催も含めて検討していかなければならないなど考えております。

佐久間部会長

ありがとうございます。では今日の議論はそういうところに行きっていくということで、この先議論していきますね。

そろそろ時間が次の議論に行かなければなりませんので、今頂いた意見も含めて横貫委員からの保育所から高齢者施設までふくめたが学校もあり得るのではないかと、あるい

は小林委員の方から地域の方から学校にどんどん入っていけるような学校のあり方もあっていいのではないかということも含めて2点目の議題が「地域とのつながりを大切にしたい学校施設（『地域風が、いきがう学校』）のあり方について」ということで議論を続けていきたいと思います。

まず、統合して新設の学校を含めて立てていくんだということも一定前提にしながらの話でいいかなと思うんですけど、もう少し先ほどの意見を膨らませながら、こだわりのように申しわけないですけど、横貫委員からもう少しイメージを保育所からお年寄りまでみたいな地域のイメージをお話しいただいて、小林委員から地域からどんどん入ってくるイメージなり現象なり、活動なりあるいはもっとこうなればいいだろうなということがあれば、教えてもらおうかなと思います。

もう少し横貫委員お願いします。

横貫委員

とりあえず、核家族ということでお年寄りと触れ合うことが余りないんじゃないかなと思うんですね。私自身は美容師をさせていただいて、お年寄りの方もカットさせてもらったりすると、結構話をしてくれるんですよ。

これはやっぱり今自分がこの歳になったから落ち着いて聞けるのかも分からないですけども、こういう話はここで終わらせるのは、すごくもったいないというのがすごくありまして、子どもたち、中学校ぐらいがいいんじゃないですかね、そういう話、会話ができると色々な意味で変わってくるんじゃないかなと思うんです。それで幼稚園や保育所の子どももそうなんですけれども、中学校でも最近は少なくなりましたがヤンチャな子どももいると思うんですよ。

成人式で暴れる子らに保育園の子どもを入れたら、おとなしくなったというのもあったんで、子どもを使っておとなしくさせるということではないんですけども、そういうふうな感じに入れてもどうなるのか見てみたいなと思いました。

佐久間部会長

施設のことがメインなので、具体的な先ほどの、いろんなイメージをおっしゃってくださいましたけれども、どんな感じでしょう。一つの建物の中に保育所から老人ホームまである。

横貫委員

1つでも敷地内に2つの建物があっても全然構わないと思うんですけど。ただ往来できるという行来きできる環境の方がいいでしょうね。時間帯であり、日にちであり、曜日でありというようなことでもいいんで、そういうふうに関われる時間帯、あるいは曜日があつた方が、いいんじゃないでしょうかね。

佐久間部会長

時間や取組以外で、空間的に何かイメージは湧きませんか。先ほどのアンティークの話ではないんですが。

横貫委員

それを言い出したらたくさんありますね。取りあえずバリアフリーですね。お年寄りの部屋は畳にしてしまおうとかね。日本茶をおいしく入れるとかね。障子を入れて和の部屋にしてしまおうとか、そこに入る時は子どもは椅子ではなく正座するとか。そういうことがいくらでもできる気がします。

佐久間部会長

教育の内容と高齢者との良い関係を作っていけると、もう少しイメージを、今の話で言うと保育所も入っていますが、保育所から小中校、高齢者でどんなことができそうですか。横貫委員、色々とアイデアがあれば。

横貫委員

全部済んじゃいますよね。それを入れたら。

佐久間部会長

全部済むとは。

横貫委員

揺りかごから何ですか、そこで全て済むという人の過程が見られるという労わる気持ちや育つのではないですかね。そういう子どもの気持ちとかお年寄りの気持ちとか、やはり弱者にあたるので、それをこれから社会貢献していく時に、自分たちがこの人たちが支えなければならないんだという気持ちも育ってくれば、ありがたいですけどね。

佐久間部会長

素敵な意見ありがとうございます。小林委員今の意見に追加して何かありませんか。

小林委員

それってべったりですか。敷地内で常にみんなが触れ合う関係がべったりなんですか。それともある程度線引きするというか間を空けるという1つの空間なんですか。

横貫委員

それは先生方がやり易いようにすれば良いかと思いますが、難しいのはお年寄りの施設の方と学校の施設にはそれぞれ管理者がいて、その管理者の間でちゃんとコミュニケーションができていないと、難しくなると思いますので、トラブルは絶対に起きると思いますし、お年寄りの方はやっぱり認知症とかそういうふうな病気にもなってくると思うので、それにどう対処するんだということもありますし、どこまでのお年寄りの方を入れるのというのがあると思いますし、その関わりが出てくると思いますので、その部分は後からまた考えればいかなと思います。

とりあえず全くかわりがない2つのこの人間を関わらせるというのが、どういう化

学反応を受けるのかが、たぶんいいようになるとは思うんですけども。

なんか寂しいですよ。お年寄りが一人で町を歩いている姿を見て、子ども達は何人かで子ども達で歩いている姿を見て。でも子どもとお年寄りが歩いている姿ってあんまり見なくなりましたよね。そういうのってもっとあってもいいんじゃないかなと思ったんで、システム的にはまた後々絶対に何か起こりますから。

小林委員

そうですね。

国吉副部長

まあ、いい化学反応が起きるでしょう。

佐久間部長

学校側として今の話を聞いていて、何か思われることはありませんか。できれば建設的に考えたいんですが。

国吉副部長

マイナス面よりも多いのはプラスの意味しか分からなかったんですけど、小でも中でもそうなんですけれども、保育園、幼稚園の子どもと繋がろうという取組をしますし、また高齢者と関わろうと取り組まれています。

しかし、そういう一時的なものだけじゃなくて、例えば今話が出ていますように、同じ敷地内にそういう施設が、近くにあれば、いつでも交流できるような状況になっているのは、非常に環境的にいいんじゃないかなと思います。

佐久間部長

齋藤先生どう思われますか。

齋藤委員

また前任校の話になって申し訳ないんですが、前任校は隣が幼稚園でした。もうなくなったのですが、フェンスだけを境にしているところだったので、週1回20分休憩はフェンスを開けて園児が、小学校のグラウンドに遊びに来るといような取組をしていたかなと思います。

横貫委員がおっしゃったように、高学年の子どもが幼稚園児をかわいがっている姿というのは、教室ではなかなか見えないなところもあって、良い光景だなと感じていたのを思い出しました。

佐久間部長

幼稚園ですか。

齋藤委員

幼稚園でした。

佐久間部会長

門真市は小学校の横に幼稚園というのが基本的なんですか。

国吉副部会長

いや、そういうものではなくて幼稚園もどんどん減っていて、今1園しかありません。

佐久間部会長

そうなのですね。ありがとうございます。もう少し建物のイメージとかあれば面白いのですけどね。またそういう機会がありますか。今日した方がいいですか。

事務局（中野教育総務課長）

次回は議論としては、小中一貫教育の議論がありますので、その環境づくりというところがありますので、施設面の説明も併せて話しはできると思います。

佐久間部会長

次回継続してイメージを膨らまして。

事務局（黒木教育総務課長補佐）

今日先ほどいただいたオープンスペースの話とか、和歌山市の伏虎義務教育学校や池田市のほそごう学園のオープンスペースの写真を撮らせていただいておりますので、次回写真などを紹介させて頂こうと思います。

佐久間部会長

はい、写真をお持ちなんですね。楽しみにしています。

それでは、もう1点の小林委員がご指摘されている地域が学校に入ってくるメリットもたくさんあって、もっと地域が入りやすい学校の在り方みたいなものもイメージがおりかなと思いますので、そこをもう少しあと15分ぐらいで議論したいなと思うんですが、提案していただけますか。

小林委員

地域ではボランティアをされている方がたくさんいらっしゃって、いろいろなかたちで学校に来ていただけるというのは、すごくありがたいことなんです。また子どもたちもいろいろなかたちでいろんな方と交流をもって、いろんなことを教えてもらうというのは、すごく大事なことだと思うんですけども、ただ受け入れる側と受け入れてもらう立場とのコミュニケーションを取れるのであれば、どんどん進めた方がいいかなと思うんです。

佐久間部会長

2点突っ込んだ質問ですけど、色々なボランティアというのは知っている限りどんなボランティアか教えてもらえますか。

小林委員

シルバーの方からだったら体操であったりとか、ダンスであったりとか、あとは家庭菜園とか、私が知っている限りではその辺ですね。いろんな知識を教えていただけるんで、子ども達が結構興味津々なんですよ。また逆に子ども達は学校で習った体操であったり、ダンスであったりとかを今度地域の方に還元するということもおかしいんですけど、そういった場所で活躍するということはいいことだと思います。

佐久間部会長

先ほど読み聞かせの話も芝生の話もありましたからね。

小林委員

読み聞かせもありました。

佐久間部会長

それと現状の学校でもボランティアが入っているという話と、先ほどの新しい建物を建てるという話と地域の人が入りやすくなるようなそういうことがあればいいなということがありましたが、それはどういうイメージですか。学校があつてその横にボランティアセンターみたいなのがひっついているのか

小林委員

そういうイメージですね。結構近くにあれば交流しやすいかなと、もっともっと交流しやすいかなと思いますし

佐久間部会長

学校の敷地の中とか

小林委員

中であつてもいいし、近くの方がいいかなと思いますけれども。

佐久間部会長

建物にボランティアの人たちが活動するような部屋があるとかいうイメージではないんですか。

小林委員

それもありだと思います。

佐久間部会長

どれがいいと思いますか。

小林委員

うーん、状況的には難しいですけども、でもあんまり過ぎると、結構、例えば、学校側はこれ以上は余り踏み込んでほしくないなという部分もあると思うんですよ。でも地域の方はもっともっと入りたいというのがあるんですよ。

それを超えてしまうと今度ぶつかってしまうんですね。学校側は授業の時間もありますし制限されてくるんですね。地域の方はこんなことをしてあげたいということで入ってくるんですね。その辺でぶつかることはあると思います。そういうこともありますので、敷地の中というのはどうかなと思います。

佐久間部会長

難しい話ですよ。

先ほどの横貫委員の生まれてから亡くなるまでという話はそれはそれでとってもいいなと思いますし、それから今の話はあんまりすると学校教育がややこしくなるということであれば、これはどうしましょう。

小林委員

保護者の意見としたら、いろんな方が入って地域の人とコミュニケーションをとってもらいたいと思うし、地域連携も大事だと思いますし、防犯にもつながると思うし、ありがたいんですけども、それを越えると断ち切れてしまうという怖さもあるんで、その辺りですね。

佐久間部会長

難しいところですね。

学校はたぶん好意で来てくださるありがたい保護者や地域の方と、その逆の人がいますよね。簡単に言えば、その逆の人は来てほしくないわけですよ。例えば利権で何かしてくるようなね。悪意を持った人が来るのは教育としたら困るわけですから、何でもかんでも地域を受け入れるという訳でもないだろうなと思います。しかし、好意を持ってきてくれる人の中でもありますよね。

でも地域の人材とか高齢者の活用とか今言っていた教育の内容との連携とかのところで言うと、昔遊びとか、家庭科の時間とか、食のこととか、防犯のこととかもそうですし、非常にありがたいですよ。

小林委員

大事だと思うんですよ。

佐久間部会長

これはどうしたらいいですか。どうすれば両者がうまく共存できるような感じにできますか。

国吉副部会長

共存かどうか分かりませんが、私の学校は地域が協力的でよく動いてくれる地域なんです。いろいろな団体が所属する総会を開いてその時に決めていくからあまり突出したことを学校に要求したりすることがないんです。だからそういう調整機関がいるんじゃないかなと思います。学校を含めたいろいろな機関が入ってそういう組織を構成し総会を持って年間のいろいろな取組を協議していく。そういうものがあるかなと思います。

佐久間部会長

それは具体的にあるんですか。

国吉副部会長

はい。

佐久間部会長

名前は何ですか。何とか協議会とかですか。

国吉副部会長

そうですね。

例えば青育協（青少年育成協議会）であってもその中に含まれますし。

佐久間部会長

その辺ご存じのこととかありますか。

齋藤委員

地域の方に入ってもらうにあたって、本校でもシルバーの方が園芸関係を一手に引き受けてくださって、いつもきれいにしてくださってすごくありがたいんです。しかし残念ながら教員と交わる機会がほとんどなくて、朝のうちに来られて帰られてしまっています。

教員が例えば野菜づくりについてシルバーの方に知恵を貸していただきたいという時にいらっしやなくて、私を通して連絡し合っているのも、そこら辺がうまくお互い共存できたらいいなとは思っています。

佐久間部会長

何か地域とうまくやっている例があればいいですよ。北河内とかこの界限ではないですよ。また調べておいてください。私が言わないといけないんですかね。

最近コミュニティースクールとか言うんですよ。地域の人が学校教育にどれぐらい参画してくるかは国においても違うと思うんですけれども、ただ国によっては教員の人事権があったりとか、こんな先生が欲しい採用、必要ないとか。

日本は公務員ですから転勤しますけれど、ずっとその学校で勤めている先生がいたり

とか、しかしその分地域にも責任が出てくるところがあつて、だから今日本は、そういう感じではないまだないので、どこまで関係を持っていくかとか、その人事のこととか予算のこととか例えば差別とか排除とかがでてきがちな話になりますので、うちの地域は障がいのある人はいないとか、そうなってくるとややこしいんで。

そんなことはあつてはならないことですから、その辺のことは今後の課題でいけるんですかね。もう少し議論していた方がいいですか。

事務局（中野教育総務課長）

地域との連携ですが、今回の小中一貫教育を進める環境づくりの討議の柱の最後に地域とのつながりを重視したプラットフォームとしての学校のあり方についてという柱があります。

佐久間部会長

はい、継続して議論していく感じで、今日のところは非常に重要だということはみんな認識したけれども、どのように距離感を持っていいかとか、どのようにうまく関係を作っていくかというところには、まだまだ議論がもう少し議論が必要だというあたりまでは進んできたという感じで、今日のところはそれぐらいにしておきましょうか。

もう少し何かあれば。時間はもう来ているんですが、もう一言だけ何か、今日これをまとめていこうと思っているんですけども、最後に何か一言とか、あれればどうでしょうか。よろしいですか。言い残したこととか。

では一旦そろそろまとめてみますね。

大分いろんな話をしたのでまとめにくいんですが、1つ目は施設ですよ。子どもにとってより良い学校施設。

学ぶ環境としての学校のあり方というところは、たくさんご意見をいただきまして、代表的な意見はとにかくトイレも含めた綺麗など言いますか、環境というのがまず重要であるというところから議論がスタートしました。

多様な例えばオープンスクールであるとか芝生このこともそうですし多目的ルームのこともそうですし、それから例えばテーブル付の椅子みたいな今の机や椅子の在り方みたいなこともそうですし、教室の画一化というか何かこうパーテーションを動かしたらいろんな目的で使えるようなスペースの作り方とか、様々な可能性があるんじゃないかというようなことでご議論いただきました。

冒頭の事務局からの話で新しい学習指導要領の、アクティブラーニングっていうんですね、主体的で対話的な学びと、最初に事務局が説明した議論をしながら学校の勉強進めていくようなことになっていくための今日はプレゼンテーションだったんですね。そういうスペースがいるんだというのが門真の提案でもあるかなというのもありますので、そういう多様な学びができるような学校施設というのを考えていけばどうかということとか。

今日議論には余りならなかったんですけど、冒頭トイレの話なんかで、象徴的だったのは例えば低学年用のトイレとか事務局からの車椅子用のトイレとか様々な子どもに配慮した環境みたいなことも、あるいは途中地域の方でバリアフリーみたいなことも言

っていただいたので、建物を建てたときに様々な人が使いやすいという点も観点の一つかなと思います。

それから地域の方はですね。つながりを大切にしたい学校施設ということですが、これもまとめるといって保育所から高齢者施設までというような核家族化が進む中で世代間の交流が減ってきている中で、そういう場所、空間がこれからの子どもの教育には非常に重要ではないかということで議論が一致しているかなと思います。

他方でボランティアに関わってもらいたいというのはボランティアの側もそれから関わってもらいたい子どもの方にも、それぞれメリットがあるということは一定共通認識ができているんですけども、どのように調整していくかとかいう辺りはまだまだ議論の余地はあるのではないかなという辺りで、今日はこれぐらいにしておこうかなと思うんですが、ほかに何か抜けていることはありませんか。大丈夫ですか。

あと事務局からあればお願いします。

事務局（中野教育総務課長）

ありがとうございました。そうしましたら全体会は4時50分から開会になっておりますので、若干の休憩を挟みまして、全体会をこの場所で開始したいと思いますので、よろしく願いいたします。